（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	プティ倶楽部大宮			
○保護者評価実施期間	令和7年　1月　20日	～	令和7年　3月　20日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	33名	（回答者数）	33名
○従業者評価実施期間	令和7年　1月　20日	～	令和7年　3月　20日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	7名	（回答者数）	7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年　3月　22日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・平日は屋内で集団レクを中心取り組み、コミュニケーション能力の向上や協調性を育む機会を作っている。 ・休日は課外活動として公園や博物館へ行き、社会性やマナーを身に付ける機会にしている。	集団活動が主な活動となっている為、そういった場面や場所を苦手としている児童に対し、別の活動を準備したり、取り組みやすいように助言や補助をするよう心掛けています。 また、児童にやってみたい事を聞き、実際に取り入れることもあります。	児童の年齢層が幅広い為、年齢に合わせた活動内容であったり、児童の成長と共に変化する趣味、趣向に合わせた活動内容の考案と実施ができるよう努めていきます。
2	・集団活動の他に畑活動、個別療育、プログラミングを実施している。 ・3事業所の合同運動会や音楽鑑賞会、ダンス発表会を設け、内部だけでなく外部とも交流を行っている。	畑活動は、食のサポートとして好き嫌いが克服できるきっかけとなり、また農作物を１から育てる事で興味の幅が広がり、将来的に就労先の選択肢を増やすことにつながっていくと考えています。 理学療法士が専任で個別または小集団の療育を行っており、児童の特性上、苦手としている分野または得意な分野のアプローチや克服または改善と原因の究明に取り組んでいます。 プログラミングでは【探テック】という教材を取り入れています。身近にある物を題材にしているため、興味の幅を広げるきっかけになっています。 外部の方と交流をすることで経験値を増やし、社会性の向上を目指しています。そして、何より音楽やダンスが楽しいと思ってもらえるように心掛けています。	畑では収穫する作物の特徴を学びの一環として伝え、収穫できる時期がわかるカレンダーを作成する事で、楽しく作物を育てる事ができるようにしています。 個別療育では達成感を感じられるよう、児童本人がわかりやすい目標設定を行います。 プログラミングでは保護者様にも効果を実感してもらえるよう、学んだことを発表する機会を設けることを検討しています。 音楽鑑賞会やダンス発表会については、曲を一緒に選ぶ等、子供たち自身の意見を取り入れることで、さらに興味も持ってもらえるのではないかと考えています。
3	・定員に空きがあれば、当日の連絡でも受け入れを行っている。 ・相談内容に対し柔軟な対応をしている。	空きがあれば、当日の朝でも受け入れが可能と保護者様に連絡をして周知をしております。お悩みがあった際は、別日に相談できる時間を作れるよう提案をしています。	特にご家庭での負担が大きい保護者様に対し、毎月の空き情報を早めにお伝えすることは、負担の軽減につながるのではないかと考えています。 管理者以外の職員に対しても、悩みを打ち明けられる関係性作りを意識するとともに、スタッフ一人ひとりが安心感や信頼感を感じていただける対応、振る舞いを徹底していきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・地域の取り組みに参加ができていない。	実施時間をあわせることが難しいこともあり、地域交流を持てる機会が作れていません。	地域資源をまずは把握して参加できるものから少しずつ参加していきたいと考えています。 公民館や集会場の活用や、お祭・イベントへの参加も積極的に企画していきます。
2	・段差が多い。室内での運動をする際にスペースが足りない事がある。	民家の為、構造上段差や柱が多く残っています。改修することは難しい為、工夫しながら活動をしていきます。	限られたスペースをいかに広く使えるのかを、スタッフと試行錯誤していきます。 危険な箇所には児童がわかりやすいように反射テープを貼り、注意喚起をすることで事故を未然に防げるよう努めています。
3	・大宮駅に近いこともあり、交通量が多いため車の出し入れや通所時、帰宅時など危険と感じられる。	特に夕方以降は、自転車や歩行者が多く、また土曜日や祝日も交通量が多い為、事業所側の配慮が必要であると考えます。	事故防止の為に、車の出し入れの際にスタッフ1名を誘導係とすることを検討しております。児童の出入りがある際は、入口と歩道の間には必ず職員を配置します。また、継続して勉強会を行うことで、安全対策に対してより理解を深めていくことも必要だと感じています。